

令和4年度 第1回鎌ヶ谷市文化財審議会会議録

開催日時 令和4年4月25日（月） 午後2時00分～
開催場所 鎌ヶ谷市役所庁舎3階 303会議室
出席委員 小川浩委員長、金出ミチル副委員長、石神裕之委員、高見澤美紀委員、
大内千年委員
事務局 皆川教育長、市村文化・スポーツ課長、後野文化係長、
大竹主任主事、高木主事
傍聴者 なし

1 開会

2 あいさつ

皆川教育長

小川委員長

3 議題

会議録署名人の選出について

会議録署名人に高見澤委員・大内委員を指名（名簿順）

【協議事項】

（1）令和3年度文化財保護主要事業について

事務局より会議資料に沿って説明した。

〔質疑〕

石神委員：文化財説明看板は市指定文化財にはすべて設置しているのか。

事務局：屋外にある市指定文化財と市指定以外の文化財にもいくつか設置している。

石神委員：市指定文化財以外の説明看板を設置する際の基準はあるのか。

事務局：文化・スポーツ課ではふるさと鎌ヶ谷散策まっぷを発行しているが、その中に看板を設置している文化財については看板マークを付けており、散策できるようにしている。

石神委員：今回の看板は以前のものとは比べて内容が充実している。ほかに

修理をする必要がある看板はあるのか。

事務局：文化財説明看板は、新指定になった文化財や設置から年月が経過しているものに新しく設置している。また、劣化が激しいものについては優先的に建て替えている。

石神委員：計画を立てて毎年行うというよりは、劣化している看板が見つかった時に建て替えているのか。

事務局：数年前に市内の看板を全部網羅しており、財政部局と調整をして、毎年古くなっているものは交換できるようにしている。

石神委員：令和4年度に建て替える看板はあるのか。

事務局：令和4年度は鎌ヶ谷八幡神社の中にある百庚申の看板の建て替えを検討している。

石神委員：今後計画的に文化財看板を建てるのであれば、ある程度フォーマット等を統一させると良いと思う。1つ1つ個別事例で建て替えるのもいいと思うが、ある程度統一性のある看板にすることが大事だと思う。

事務局：今後は、令和3年度に設置した中沢貝塚の看板のようなフォーマットにしていこうと思っている。

大内委員：文化財の看板があることによって地元の人たちからの認知度が確実に高くなっていく。デザインも統一させるとより多くの人に認知されていくと思う。

小川委員長：文化財看板は市の広報でPRするよりも効果がある場合が多いと思う。

(2) 令和4年度文化財保護主要事業について

事務局より会議資料に沿って説明した。

〔質疑〕

大内委員：埋蔵文化財活用整理事業として、県の補助金で中沢貝塚24次調査の整理作業を行い、国の補助金で中沢貝塚29次調査の整理作業を行うとなっているが、同時並行で進めるということか。

事務局：作業工程をずらして実施する予定である。令和4年度の前半に

24次調査の整理作業を行い、それが終了した後で29次調査の整理作業を行う予定でいる。

(3) 国史跡下総小金中野牧跡周知普及事業について

事務局より会議資料に沿って報告した。

[質疑]

高見澤委員：周知品は郷土資料館などどこかで常に見られるようになっているのか。

事務局：現時点では国史跡のイベントのみで限定販売している。

小川委員長：周知品は子どもが多く買ったのか。

事務局：子どもと一緒にイベントにきた保護者の方の購入も多かったが、大人の方のみの購入も多かったと思う。

金出委員：鎌ヶ谷市だけでなく、関連する文化財の所在する他市とも連携して普及活動をしていくとさらに良い活動ができると思う。その時には、とっこめさくら祭り等はその中の一大イベントになっていくのではないかと思った。

事務局：国史跡下総小金中野牧跡が拠点となって、人が集まってくるというところを目指したいと思っている。その前に国史跡を知ってもらわなくてはいけない。せめて名前だけでも覚えてもらいたいという事から周知普及事業を始めた。

大内委員：国史跡の事業は教育委員会だけで一連の事業を行っているのか。事業の進め方や体制について教えていただきたい。

事務局：国史跡に関しては国史跡下総小金中野牧跡周知普及実行委員会を立ち上げている。実行委員会の事務局は文化・スポーツ課文化係だが、捕込の近くの自治会やレクリエーション協会、茶道協会等市内で活動している団体で構成している。他にも、鎌ヶ谷駅前にあるNPO法人のKAOの会や野馬土手がある小学校の校長先生たちがメンバーとなっている。そのメンバーで、どのようなイベントができるか検討した。その結果、歴史に興味がない方にも集まってもらいたいということで、寄席やバス

ツアー、保全活動等を馬をキーワードにして行っている。

大内委員：庁内での連携は無いのか。

事務局：現時点では無い。

大内委員：周知のためのキーホルダー等の販売は商工関係の部局が興味を持つのではないかと。普及事業は鎌ヶ谷市の史跡を使ったまちおこしになっていると思うので、商工とか観光の部局と連携できないか検討していくと良いのではないかと。と思う。

高見澤委員：とっこめ塾での講義内容は毎回違うのか。参加者は毎年参加しているような人もいるのか。

事務局：令和元年度までは中山競馬場招待という特典を付けていたため、参加者は例年参加する人もいれば初めて参加する人も何人かいるという状況である。

講義は、JRA競馬学校の獣医師と文化・スポーツ課職員が話している。JRA競馬学校から派遣される講師は2～3年獣医師が続いていて、話す内容は多少違うが、似ているところがある。文化・スポーツ課職員の講義も牧についての概略的な話をしているが、去年は競馬場招待が無かったため、歴史が好きな参加者も多かったことから専門的な話を求める声があった。そのため、今年度は職員の講義時間を長めに設定して講義を行った。

高見澤委員：講義の内容が毎年似ていると参加者が増えないと思う。講義の内容を2～3個用意し、ローテーションしていくと今よりも多くの方が参加してくれるのではないかと。と思う。

事務局：とっこめ塾は開催してから10年以上経過しているため、イベントの内容について見直していきたいと思う。

(4) 文化財保存活用地域計画について

事務局より会議資料に沿って説明した。

〔質疑〕

小川委員長：石造物の一覧は、市内の墓石が抜けているのではないかと。

事務局：三橋家墓地と清田家墓地については市指定文化財の一覧に入れている。他の墓石については再度確認する。

金出委員：建造物の悉皆調査の範囲はまだ限られているため、これから増えると思われる。昔からの集落が多くあるため、悉皆的に建造物調査を行うと他にも見つかるのではないか。まだ、調査途中であるということを資料編の8ページや本文の42ページの建造物の記載箇所に明記しておくといいいのではないか。未指定文化財の建造物の件数が本編と資料編で数が合致していないが何か理由があるのか。

事務局：建造物の数に関しては、資料編に記載している10件が、現時点で事務局として出していこうと考えている数である。

石神委員：資料編の文化財リストでは番号を振っているが、番号を振ると本編の文化財でも番号を振る必要が出てくるのではないか。また、資料編の23ページ、民間信仰・講の箇所だが、凡例として講の存在状況が□と○と●に分かれているが、この存在状況はいつ時点のものか。

事務局：鎌ヶ谷市史を作成した時のものと考えたと平成10年代である。

小川委員長：調査を行ったのは昭和30年代の可能性もある。

石神委員：調査した時期と現在では年数が経っているため、現在の存在状況でないのであれば存在状況の記載は削除した方が良く思う。

事務局：現存する講はいくつかあるが、すべての講の存在状況については確認できていない。これまで確認された講という表記を付け、存在状況の表記は削除する。

高見澤委員：文化財リストの番号だが、番号を振っているものと振っていないものがあるが、理由はあるのか。

また、歴史資料の10ページ、11ページの鈴木家同旧蔵文書と石田家同旧蔵文書の点数が空欄になっている。ほかにも高橋家文書や高木家文書が0点となっているが、どういうことか。歴史資料の中に同じ地区で同じ苗字の文書があり、これは同じ

家の資料と思われるが、これは1つにまとめないのか。

事務局：資料編の歴史資料の一覧については、資料館で作成した一覧に基づいて作成している。点数が0点や空欄となっている文書については後日資料館に確認予定である。また、資料館から頂いた歴史資料の一覧にはフルネームで資料名が記載されていたが、個人情報などに配慮して苗字だけの記載としている。

大内委員：文化財リストで使っている通し番号は抜いた方が良いと思う。通し番号は削除し、総数のみ記載する方が良いと思う。保存樹木の指定番号など理由のある番号以外は削除して良いと思う。

金出委員：地図資料についてだが、非常にわかりやすくなっている。しかし、本編の10ページと11ページの地図で黄緑と緑が示しているものが逆になっている。また、51ページの地図では10ページ、11ページとは違う内容を示しているが、同じ黄緑や緑を使用している。3つの地図を見比べたときに内容が伝わりづらと思う。色を変えたりすることはできるか。

事務局：51ページの地図については、事務局で作成しているが、10ページ、11ページの地図については、鎌ヶ谷のあゆみから引用している。

石神委員：10ページ、11ページの地図の色を修正するためには相当の時間がかかると思う。可能性があるとするれば、51ページの地図を作り直すことだと思う。

事務局：10ページ、11ページの地図は、今回見開きページに2つの地図が入ってしまっているの、見づらくなってしまったかと思う。

石神委員：51ページの地図に水系を書き入れたりして、情報を付加していくのはどうか。

小川委員長：等高線を細かく入れてみてはどうか。

高見澤委員：等高線はあまり意味がないと思う。本編図5の地図については、千葉第一段丘と第二段丘の標高15メートルと10メートルで色分けしているが、図4では、20メートル以下を白く塗ら

れ、まとめられている。

事務局：図5については他と差し替える。

高見澤委員：9ページと21ページに鉄道の図があるが、21ページには北総線成田スカイアクセス線と「線」が記載されているが、9ページには「線」が記載されていない。また、東武野田線と表記されているが、東武のホームページを見るとアーバンパークラインという愛称で統一されているが鉄道会社の表記はどうか。

事務局：21ページの成田スカイアクセス線の「線」は削除する。アーバンパークラインの表記については庁内で確認する。鎌ヶ谷市総合基本計画作成時は、東武野田線で統一するとなっていた。

金出委員：9ページの地図に千葉県と追記すると良い。

51ページの地図には7地区が書かれているが、初富地区が()のなかに書かれている。初富地区についても他の6地区と同様の表記にすると本文とも合致すると思った。

事務局：初富地区を入れてみたが、初富地区の文字だけ浮いてしまっていたので()で記載していた。

小川委員長：牧(初富)となっているが、牧(初富地区)とするだけでもいいのではないか。

事務局：牧(初富地区)と表記する。

高見澤委員：ページの取組主体について、市民、所有者、専門家、団体、行政と分かれているので、△や◎と区別せず、○だけでいいのではないか。

事務局：この表記については主体とサポートがどこなのか明確に位置付けるためにつけている。これは文化庁からの指示である。

高見澤委員：市民主体のものは一切ないということか。

事務局：現状としては無い。

金出委員：64ページの取組の覧で「ボランティアの活用を検討します」と記載しているが、「ボランティアの募集を検討し、協力を得ます」など表記を見直してはどうか。

大内委員：「ボランティアの募集を検討します」と統一してしまっ
うか。

事務局：統一する。

事務局：94ページの表で鎌ヶ谷市の文化財の保存・活用の推進体制を
表にまとめているが、庁内で、文化財の保存活用計画推進連絡
会議といった形で年に1度4月5月の時期に関連部局との会
議を設けたいと考えている。想定しているのは、既に策定協議
会のメンバーに入っている環境課、商工振興課、都市政策室に
加えて、公園緑地課などである。関連部局と昨年度実績や今年
度の予定、今後の見通しなど共通認識をする場を設けて今後進
めていけたらと考えている。推進連絡会議で事業の進捗状況を
確認しながら、他の支援団体、自治会、所有者などには、文化・
スポーツ課が直接話をして計画を進めて行く。それらの事業の
進捗状況などについて、この文化財審議会で報告したいと考
えている。

(2) その他

事務局より計画認定までの今後のスケジュールについて説明

閉会

【会議終了】

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証する。

令和 4年 8月18日

署名人 高見澤 美紀
大内 千年